

新あま市民病院

『私たちは、医の心を持って

地域の人々の健康と福祉を護ります』



基本設計まとまる

4月11日に市民病院建設調査特別委員会が開催され、執行部より新市民病院建設の基本設計概要について説明がありました。

新市民病院建設基本設計概要

初

めに設計方針として、①利用者のニーズにこた

える、地域の中核病院、

②医療情勢の変化に追従できる拡張性のある病院、③災害に強い、安全

安心な病院、④健全な経営に資するコストパフォーマンスの高い病院

の4点が示されました。

敷

地面積は、現在の1・6倍の約

1万6000㎡で、甚目寺総合福祉会

地

震対策として、予測される海溝型地震時に

館の西隣。建物は地下1階、地上4階建て、延べ床面積は現在の1・5倍の約1万4700㎡、病床数は、180床の計画とされました。

医療が継続、維持できるレベルの免震構造の採用、および液化化対策の実施。冠水、津波対策として、主外構レベルを1mの高さに設定すると共

に、東海・東南海地震の津波予測2mに対して、1階フロアレベルを2・2mの高さにするとされました。

その他病院内部の配置構成、敷地内の配置計画などについての説明があり、平成27年度当初の開院を目指し、引き続き市民の皆様を期待される、質の高いより良い医療を提供できる病院建設を進めていきたいと締めくくられました。



外観イメージ（これは、完成イメージであり、実際の建物とは異なります。）

主な質疑

問 一般の方の駐車スペースが160台とのことだが、足りないと思われるので二階建て駐車場などの検討を。

市長 二階建ても考えなければならぬが、当初から考えるのではなく、実際に足りなくなったときに考えたい。

問 消火ポンプ、給水ポンプ、油ポンプは地下1階に設置されると思うが、冠水すると機能しないのでは。

市民病院建設課長 地盤高は上げてあるが、それを超える場合の対応は、防潮扉、防潮壁を検討し、クリアできるような形で実施設計に反映したい。

問 配置図の保育スペースは、すごく狭いと思う。また、この基本設計にはないが、看護師寮についても考えてもらいたい、看護師を確保するには、

もう少し配慮すべきでは。

市民病院建設課長 保育スペースは10人程度の保育ができる面積となっているが、今後、実施設計の中で検討したい。

市長 看護師寮があれば一番良いが、例えば、アパート、マンションの一室を借りる形などが、周辺では多いと聞いているので、そのような形を考えている。

問 医薬分業で外来等の方々の薬局が病院の外となる問題は、この基本設計には反映されていないと思うが、考えは。

市民病院事務局長 利便性も考えて、薬剤師会とも今後煮詰めていきたい。

問 他の結構新しい病院でも、トイレがほぼオープンになっていて、トイレのにおいが院内全体に広がっている傾向があるので、特別な配慮を。

市民病院建設課長 現在は基本設計の段階で、具体的には決まっていない。十分配慮した形で、設計をする。

問 地元業者が建築にかかわれるような配慮と、同等品であれば地場産業の製品を優先する配慮を。

市民病院建設課長 できるだけ地元業者が使えるような発注の方法を検討するとともに、地元の資材についても可能なものについては取り入れたい。

問 病院の寿命は30年だと先生が明言されているが、将来の建てかえおよびかぎ型になっている敷地の購入は。

市長 30年後を見据えた建てかえを、隣接の総合福祉会館も含めて計画しなければならぬ。なお、長方形になる形での土地の購入も視野に入りたい。